

## 2 妻木晩田遺跡の大型竪穴住居と集落構造

大型竪穴住居 ～竪穴住居の床面積の変動が示すもの～

### (1) 妻木晩田遺跡での竪穴住居の規模

集落最盛期となる後期後葉を頂点とする山形をなす。

終末期には超大型の住居が出現（遺跡内に3棟）。

### (2) 大型竪穴住居跡とは？

- ・暫定的に30㎡以上を大型住居、50㎡前後を特に超大型住居と呼ぶ。

### (3) 特徴の整理

分布（後述）

出土遺物

- ・出土遺物は少ない。一部では破鏡が出土した例がある。

構造

- ・既存の研究によれば、住居跡の平面プランと規模には2つの系列があり、大型住居には系列1による円形あるいは多角形で5～8本をもつものと、方形4本柱で柱間を広くとるパターンが存在。
- ・上屋構造も模型で復元してみたが、基本的には一般的な規模の竪穴住居と同様の構造で復元可能で、特殊な構造を想定する必要性は？

使用材料の量

- ・ただ、構造は同じでも屋根が大きくなるので、材料の確保や建築に際してより多くの労働力が必要。

周辺の大規模集落遺跡での大型住居

- ・最盛期を中心に大型住居が多く、後期後葉あるいは終末期には大型の棟数が減少し代わりに超大型が出現。青木の超大型はやや早い後期後葉に出現。

### (4) 大型住居の解釈

- ・大型竪穴住居は、「有力者の住居」、「大人数家族が居住した住居」、「集落の集会場」の3種類の解釈がある。集会場なら時期、集団を問わず存在するはずであるが、妻木晩田遺跡では時期的平面的分布に偏差があることから、少なくとも「集落の集会場」に特化した機能とは考えにくい。「有力者の住居」か「大人数居住の住居」かは難しいが、規模の上で区別される超大型住居は有力者の住居と考えたい。一方、床面積30～40㎡程度の大型住居は、大人数家族が居住する場合と集団の有力者が居住する場合があったと理解。

## 集落構造 ～集落の中に首長層の居住域は存在するか～

### (1) 分析の方法

- ・遺構群の通時的な遺構のまとめり(=遺構群、17個)それぞれの特徴を整理することで各遺構群の特徴を抽出。さらに特徴的な遺構群を時期別に分解し、集落構造を理解。遺構群は、一時期ごとの住居のまとめり(居住単位)の累積に相当。

### (2) 遺構群の分析

#### 大型竪穴住居の分布

- ・大型、超大型住居の分布には粗密があり。

#### 鉄器の出土点数

- ・住居群によりかなり格差があり。
- ・出土数の評価には慎重でありたいが、妻木山B、E、松尾頭Bは興味深い。

#### 大型掘立柱建物と9本柱建物

##### a) 掘立柱建物の規模

- ・遺跡内では、1×1間、2×1間が大半で、面積も10㎡以下のものが75%。
- ・50㎡を超える超大型のものは、妻木新山B(SB77、9本総柱)と松尾頭B(SB41)。

##### b) 9本柱建物

- ・遺跡内に11棟(規模不明なものは除く)。規模は様々だが、小規模なものまで総柱が採用されていることは構造の特殊性か。
- ・大型住居や鉄器が比較的多く出土している遺構群に存在することは重要。
- ・松尾頭地区にはなく、代わりに他の場所にはないSB41建物やSB52建物が存在。

#### 継続期間

- ・土器型式1～2型式程度の短期で断続的に存在する集団がある一方、4期以上の長期にわたり継続する集団が5群存在。

#### まとめ

- ・それぞれの要素が重層的となる場所では物資、人口の集中が生じていたか。
- ・各遺構群は下記の3つに区分可能。

類：超大型住居を含む6～5点の遺構群(妻木山B、松尾頭B)

類：4～3点の遺構群(妻木新山B、妻木新山A、D)

類：1点以下の遺構群(その他12遺構群)

- ・、類の時期別分析では、

類：妻木山Bと松尾頭Bは、いずれも後期後葉と終末期後葉に集中。

類：妻木新山Bは後期中葉から後葉、妻木山Dは後期後葉から終末期前半に集中。妻木山Aはとりわけ集中した時期はなし。

## まとめ

竪穴住居の規模の分析からは、超大型住居と大型住居の存在がうかがわれ、各集落での状況から、超大型については有力者の住居、それ以外の大型住居については他人数居住の場合と有力者の住居の場合があったと考えられる。

妻木晩田遺跡の遺構群の分析からは、集落には長期継続しある時期に物資の集中がみられる有力な集団と、そうでない集団がある。とりわけ、妻木山Bと松尾頭Bの集団は後期後葉と終末期後葉には最有力の集団であり、超大型住居の存在からみて、その前段階より一段と影響力を高めた首長の存在を推察する。

松尾頭Bの大型掘立柱建物(SB41、SB52)の解釈は難しいが、妻木山方面の集団が構造的に特異な9本柱建物をもつ一方、松尾頭Bにはこれが欠落することを重視しておきたい。

つまり、両者の建物が同じ機能かは分からないが、各集団の中における位置づけは同じであったと考えるわけで、いずれも周囲の住居群に包括されて存在することから、各集団内での日常的な祭りに使用された建物かもしれない。